



平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 医学研究科	
氏名 堀 寧	
学会の名称 Digestive Disease Week 2015(米国消化器病週間) (アメリカ ワシントン DC)	
	研究発表報告 「膵臓癌における TP53 condon72 と MDM2 SNP309 の遺伝子異常について」という基礎研究の検討を 2015 年米国消化器病週間で報告させていただきました。検体をご提供いただきました全ての施設の先生方にこの場をお借りして深くお礼申し上げます。

所属 医学研究科	
氏名 市川 博也	
学会の名称 American Thoracic Society (米国胸部学会) (アメリカ デンバー)	
	研究発表報告 American Thoracic Society (米国胸部学会)は呼吸器領域で世界的に権威ある学会であり、各国から高名な研究者、臨床医が集まる学会です。今回の発表は当研究室で取り組んできた誘発喀痰についての発表をしました。他国の研究者と交流して様々な意見をいただき刺激を受けました。今後の研究に生かしていきたいです。

平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 医学研究科
氏名 益田 秀之
学会の名称 Society for investigative Dermatology (米国研究皮膚科学会) (アメリカ アトランタ)
研究発表報告 

所属 医学研究科
氏名 村松 伸之介
学会の名称 Society for Investigative Dermatology (研究皮膚科学会) (アメリカ アトランタ)
 <p>研究発表報告</p> <p>2015年5月6日から9日まで開かれた2015 SID Annual Meetingに参加し、Serum interleukin-6 levels in response to biologic treatment in patients with psoriasis というテーマで発表いたしました。非常に刺激的で、有意義な体験となりました。今後の研究に役立てたいと思います。</p>


平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 医学研究科
氏名 浅野 貴光
学会の名称 American Thoracic society international conference (米国胸部学会会議) (アメリカ)
研究発表報告 


所属 医学研究科
氏名 村瀬 熱紀
学会の名称 International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine (ISAKOS) (フランス リヨン)
 <p>研究発表報告</p> <p>今回私はフランスのリヨンで開催された第 10 回 ISAKOS に参加いたしました。ISAKOS は 2 年に 1 回開かれる関節鏡・スポーツ学会です。世界中から約 4000 人以上の整形外科医、レジデントなどが参加したようです。膝関節、肩関節における最近の Topic についての世界的な英知を得ることができました。特に興味深かったのが学会中の live surgery で、世界の top surgeon が屍体膝を用いた関節鏡手術を行いました。日本では経験できないことを経験させて頂きました。この学会で得た知識を今後の研究さらには臨床で応用できるよう努力して参ります。このような機会を与えてくださった整形外科室の大塚教授、名古屋市立大学に深謝致します。ありがとうございました。</p>


平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 医学研究科
氏名 加賀 志稀
学会の名称 The 7 th International Congress of Asian Society of Toxicology (第7回 国際アジア毒性学会) (韓国)
研究発表報告 2015年6月23日から26日に韓国済州島で行われた The 7 th International Congress of Asian Society of Toxicology に参加し、英語で口頭発表やポスター発表をする機会を与えていただきました。この学会では国際的に通用する研究者として英語の重要性を実感しました。日本語が母国語でない研究者に私の研究内容を理解してもらいディスカッションできたことはとても素晴らしい経験となりました。この学会参加で得たものを今後の研究生活に是非生かしていきたいです。このような機会を与えていただいた名古屋市立大学国際学会支援に深く感謝いたします。
 

所属 医学研究科
氏名 佐藤 博貴
学会の名称 31 st International Congress on Occupational Health (第31回 国際労働衛生会議) (大韓民国)
研究発表報告 今回、韓国ソウル市で開催された第31回国際労働衛生会議 (ICOH) に 5/31-6/3 まで参加してきました。本学会は国際労働衛生委員会により3年に1回開催されるもので、世界中の労働衛生分野の専門家が集う伝統ある学会です。Advances in Biological Monitoring のセッションにおいて、「防疫作業従事者における有機リン系殺虫剤代謝酵素の一遺伝子多型と酵素活性および尿中代謝物濃度との関連」についてまとめた研究を口頭発表する機会をいただき、大変貴重な経験をしてきました。発表時にいただいた質問・意見を、今後の研究に生かしていきたいと考えています。


平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属	医学研究科
氏名	大橋 圭
学会の名称	The 13 th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology (第 13 回アジア大洋州小児神経学会 (台湾))
	<p>研究発表報告</p> <p>平成 27 年 5 月 14～17 日に台北に開催された第 13 回アジア大洋州小児神経学会に参加させていただきました。自身の発表では DSM-5 における自閉症スペクトラム障害と DSM-IV-TR における広汎性発達障害の診断一致率に関する研究について発表を行い、他の先生方から質問・意見をいただくことができました。また、学会全体を通して小児神経領域における最先端の知見を得ることができました。</p>

所属	医学研究科
氏名	伊井 俊貴
学会の名称	Association for Contextual Behavioral Science world conference13 (第十三回文脈的行動科学協会世界会議) (ドイツ ベルリン)
	<p>研究発表報告</p> <p>2015 年 7 月 14 日から 7 月 15 日にかけて、Association for Contextual Behavioral Science world Conference13 がドイツのベルリンで開催された。13 回目と比較的歴史の浅い学会であるにも関わらず参加者は 1000 人程度で非常に活気にあふれた学会であった。本学会において大学院の博士論文のテーマである物質使用障害に対するアクセプタンス&コミットメントセラピーのレビューについてポスター発表を行った。今回の学会参加によってポスターに引用した多くの論文の著者と議論をすることで、今後の研究を深める良いきっかけとなった。本学会で得た、他の研究者とのつながりや、議論を今後の研究に生かしていきたい。</p>

平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 薬学研究科	
氏名 落合 なつき	
学会の名称 40 th Congress of the Federation of the European Biochemical Societies (欧州生化学会 2015 会議) (ドイツ ベルリン)	
研究発表報告 私は今回、ドイツはベルリンで開催された「FEBS 2015 Congress」という学会に参加し、自身の研究成果についてポスター発表を行ってきました。本学会には大勢の研究者が参加しており、様々な質問や助言をいただく事ができました。幅広い分野に関する講演や研究発表が行われており、生化学分野にまつわる最先端の知見を数多く得ました。また、英語で討論することで、語学力も磨くことができました。本学会への参加を通して、研究面、生活面ともに、日本国内ではできない経験を数多く積むことができたと感じています。	

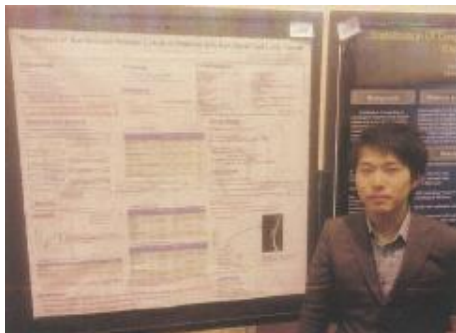
所属 薬学研究科
氏名 野木森 拓人
学会の名称 CSHL meeting on Eukaryotic mRNA processing (真核生物 mRNA プロセッシング) (アメリカ)
研究発表報告 

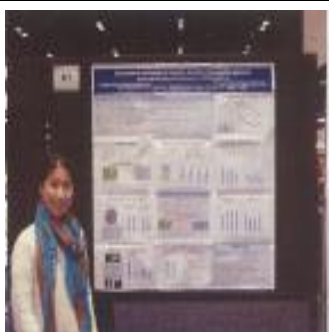
平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属	システム自然科学研究科
氏名	松村 昌典
学会の名称	8 th INTERNATIONAL CONFERENCE on ADVANCED VIBRATIONAL SPECTROSCOPY (第 8 回応用振動分光国際会議) (オーストリア)
	2015 年 7 月 12 日～17 日にオーストリアのウィーンで行われた ICAVS8 に、本学の国際学会発表支援事業を利用し参加・発表をさせて頂きました。本会議は、振動分光学を専門とする世界の著名な研究者が集い、この分野の最先端に行く多数の発表を聞くことができました。自身の研究発表では、活発なディスカッション及びコミュニケーションをとり、研究の発展につながる数多くの助言を頂くことで、今後の展望を新しく掲げることができました。
	


所属	システム自然科学研究科
氏名	楠根 貴成
学会の名称	XXIX IAU General Assembly (第 29 回 国際天文学連合総会) (アメリカ ホノルル)
研究発表報告	アメリカ・ホノルルにて 2 週間に渡って開催された「XXIX IAU General Assembly」に参加し、ポスター発表を行いました。この総会は 3 年に一度開かれ、研究発表だけではなく、天文学に関する様々な議題を議論・討論し決定する場所でもあります (近年の冥王星の分類等)。発表分野は非常に多岐に渡っておりまして、普段あまり接することのない分野の研究講演を数多く聞く事ができ、自身の見聞を広げることができました。自身の研究分野におきまして、今何が注目されているのか、そしてそれを踏まえてこれからの自身の研究活動をどのようなものにすべきなのか知見が得られ、大変有意義な総会になりました。次回は口頭発表ができるよう、注目されるような研究成果を目指して研究に励みたいと思います。
	

平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 医学研究科	
氏名 相羽 久輝	
学会の名称 ISOLS (国際患肢保存学会) (アメリカ フロリダ)	
	研究発表報告 整形外科骨軟部腫瘍の領域で初めて国際学会にて発表を行うことができ、非常に光栄に存じております。今後もこのように国際学会に参加し、知見を広げるとともに当院での治療法などを周知し国際貢献できるようにより一層努力を行っていきたいと考えております。この度は大学よりも多大なる支援を頂きありがとうございました。


所属 医学研究科	
氏名 西垣 瑠里子	
学会の名称 Neuroscience 2015 (北米神経科学会 2015) (アメリカ シカゴ)	
	研究発表報告 北米神経科学会 (neuroscience2015) で、「Early period of development is critical for the effect of monosodium glutamate on decreased aggressive behavior in ADHD model rat」という題目のポスター発表をしました。世界レベルを知る良い機会であったとともに、好奇心と感激の詰まった1週間でした。

平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 医学研究科
氏名 アブドラ モハンマド
学会の名称 Neuroscience 2015 (北米神経科学会 2015) (アメリカ シカゴ)
 研究発表報告 2015 年の北米神経科学会 (米国シカゴ開催) において、2 年間で精力的に行った研究成果 (アルツハイマー病分子病態におけるエクソソームの分泌とその役割に関する研究) を口頭発表した。写真は、会場入り口付近での発表者 (アブドラ)。


所属 医学研究科
氏名 戸川 貴夫
学会の名称 The 65th Annual Meeting of the American Society of Human Genetics (第 65 回アメリカ人類遺伝学会) (アメリカ ボルティモア)
研究発表報告 2015 年 10 月 6 日から米国ボルティモア市において開催された、第 65 回 American Society of Human Genetics Annual Meeting に参加しました。私は Next-generation sequencing uncovered unexpectedly high prevalence of neonatal Dubin-Johnson syndrome (次世代高速シーケンサーを用いた遺伝子解析により新生児 Dubin-Johnson 症候群の有病率が明らかとなった) をポスター発表しました。本演題は reviewers' choice abstract に選ばれました。新生児 Dubin-Johnson 症候群を分子遺伝学的手法で診断した例は過去に数例しかありません。我々は 5 例で同定したこと、本疾患が東アジア人、特に日本人に多い疾患であることを示した点が評価されたと考えます。我々の今後の研究を続ける上で大変勇気づけられました。世界最先端の学会に参加することは、世界の潮流を肌で感じ自らの研究を相対化することができ、貴重な経験であると考えます。


平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 医学研究科	
氏名 川瀬 恒哉	
学会の名称 12th WORLD CONGRESS PERINATAL MEDICINE (第 12 回世界周産期医学会) (スペイン マドリッド)	
	<p>研究発表報告</p> <p>今回、スペインで開催された 12th World Congress Perinatal Medicine に参加し、研究成果を発表しました。本学会は、周産期医学の世界最先端の国際学会であり、世界各国から多くの参加者が集い、最新のトピックについて活発な発表・討論がなされていました。このような学会で自分自身の研究内容を発表することができたことは、大変意義のあることと感じました。同時に最新の情報や技術を手に入れることができ、日々の診療にフィードバックすることができると思っています。今後も世界に発信できる研究を継続し、周産期医療の発展に尽力してまいりたいと思います。</p>

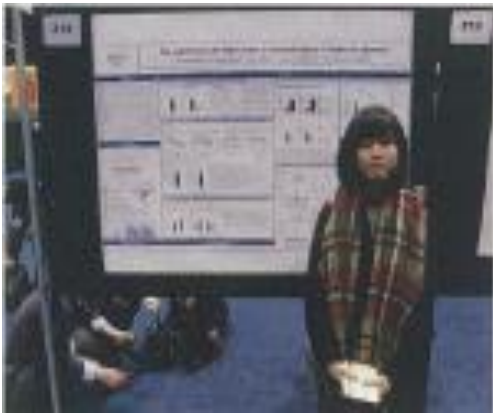
所属 薬学研究科	
氏名 澤山 侑季	
学会の名称 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (2015 環太平洋国際化学会議) (アメリカ ホノルル)	
<p>研究発表報告</p> <p>私はアメリカ合衆国・ホノルルで行われた 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (2015 環太平洋国際化学会議) に参加しました。2015 年 12 月 16 日に「Studies toward the synthesis of oxygenated terpenoids utilizing an Ireland-Claisen rearrangement of tetrahydrofuran-2-carboxylate derivatives (テトラヒドロフラン - 2-カルボン酸エステル誘導体の Ireland-Claisen 転位を利用した酸化型テルペノイド類の合成研究) という題目でポスターセッションを行いました。私は英語があまり得意ではないので発表前は不安でしたが、相手の様子から自分の言葉が伝わっていると感ずることができたので嬉しく思いました。</p> <p>また、ディスカッションを通して研究をより良くするための助言を頂いたり、他の研究者の発表を聞いたりすることにより、今後の研究に不可欠な情報を集めることができました。</p>	


平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 薬学研究科	
氏名 鈴木 恵介	
学会の名称 Pacifichem 2015 (2015 環太平洋国際化学会議) (アメリカ ホノルル)	
研究発表報告 <p>国際学会では、当然ながら世界中の研究者と議論を行うため、英語で議論を行った。母国語ではない言語での議論を通して、不自由ながらもいかにわかりやすく説明するかを考える機会が得られ、プレゼンテーション能力の重要性を再確認できた。また、自身が行ってきた研究内容を世界中に向けて発信できる機会を得られたことを光栄に思うとともに、世界中のライバルの存在を直に認識することができたことは、研究意欲の向上につながった。自身と同じように、他の研究者に刺激を与えられるような研究を行えるよう、今後も精進したい。</p>	

所属 薬学研究科	
氏名 富田 友紀	
学会の名称 The Western Pacific Colloids Meeting 2015 (西太平洋コロイド会議) (カンボジア)	
研究発表報告 <p>私は本制度を利用させていただき、カンボジアで行われた The Western Pacific Colloids Meeting 2015 に参加して、数少ない英語での発表機会を得ることが出来ました。また、専門性の高い会議であったため、論文著書に対して論文だけではわからなかったような細かい部分の質問ができました。今回はアジア大会ということで、アジアの学生が参加しており、Tea Break の時間などに研究内容のみならず様々な話をする中で、アジアならではの英語リスニングの難しさにふれ、今後交流が必要不可欠となるアジア圏でのコミュニケーションの大切さを肌で感じました。</p>	


平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 薬学研究科	
氏名 酒井 かおり	
学会の名称 Neuroscience 2015 (神経科学会 2015) (アメリカ シカゴ)	
研究発表報告 <p>私は 2015 年 10 月 17～21 日にアメリカのシカゴで開催された、Neuroscience 2015 において、ポスター発表を行いました。世界中の神経科学者が集まる、非常に規模の大きな学会であったため、シンポジウムやポスターなど様々な場面で盛んに意見交換が行われている様子が印象的でした。自分の発表に関してですが、普段英語のみでディスカッションを行う機会がなかったため、様々な研究者の方と研究について英語で話したことは大変貴重な体験であり、勉強になりました。この学会に参加したことで、今後の課題や目標が明らかとなったので、さらに研究や英語の勉強に力を入れていきたいと思えます。</p>	

所属 薬学研究科
氏名 荻野 ひまり
学会の名 Neuroscience 2015 (北米神経科学会議) (アメリカ シカゴ)
 <p>研究発表報告</p> <p>私はアメリカのシカゴで開催された Neuroscience 2015 に参加しました。神経科学分野においては世界最大級の学会であり、広い会場のどこを見渡しても世界中から集まった研究者が熱い議論を交わしている光景が強く印象に残っています。英語力も知識量も至らなかったために、自分の研究や他者の研究について英語でディスカッションをすることはとても難しく、悔しい想いもたくさんしましたが、この研究を糧にさらなる努力を積み重ねて成長していきたいと思いました。また、これからもたくさんの研究者の方と出会いを通じて、自分の研究への視野を広げていきたいです。</p>

平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属 薬学研究科	
氏名 佐藤 直子	
学会の名称 The Western Pacific Colloids Meeting 2015 (西太平洋コロイド会議) (カンボジア)	
研究発表報告 私はこの制度を利用してカンボジアで行われた The Western Pacific Colloids Meeting 2015 に参加し、ポスター発表を行いました。初めての国際学会参加で戸惑うことも多くありましたが、つたない英語ながらも有意義なディスカッションを行うことができ、今後の自身の課題を見つける上でとても貴重な経験になりました。この学会で得たものは、今後の研究や学校生活に生かしていきたいと思えます。	

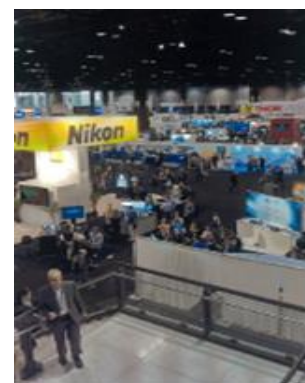
所属 薬学研究科	
氏名 高 琦琦	
学会の名称 2015 AAPS Annual Meeting and Exposition(AAPS 年会) (アメリカ オーランド)	
研究発表報告 私は、アメリカフロリダ州オーランドで開催された AAPS Annual Meeting and Exposition に参加しました。研究している Preparation of novel curcumin-loaded iron oxide nanocomposite particles for inhalation against lung cancer についてポスター発表を行いました。世界各国の研究者と研究の内容について議論したことが楽しみになりました。他の研究者から色々アドバイスをしてくれました。勉強になりました。また、新しい研究視角、異国の文化に触れることができ非常に貴重な体験になりました。	

平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書


所属 薬学研究科
氏名 横川 慧
学会の名称 American Society for Cell Biology (アメリカ細胞生物学会) (アメリカ サンディエゴ)
研究発表報告 私は、2015 年 12 月 12 日から 16 日にかけてアメリカ合衆国のカリフォルニア州サンディエゴで行われたアメリカ細胞生物学会に参加し、Cell adhesion molecule 1(CADMI) influences granule movement and glucagon secretion in pancreatic alpha cells. というテーマでポスター発表を行いました。本学会は細胞の基本的な機能に関する研究内容が数多く報告され、自由な雰囲気の中で最新の研究データに関する活発な意見交換が行われていました。普段の研究生活とは異なる国際学会で刺激のある有意義な時間を過ごすことができました。今回得られた経験をもとに今後の研究生活をより良いものにしたいと思います。




所属 芸術工学研究科
氏名 森 光洋
学会の名称 Neuroscience 2015(北米神経科学学会) (アメリカ シカゴ)
研究発表報告 私は今回の学会発表で、身体感覚の伸縮を誘発する装置の開発と、その装置を元にした伸縮感覚の誘発における各モダリティ間の要因分析の結果をポスターにまとめ発表しました。はじめての海外での学会発表という事もあり、うまくコミュニケーションを取る事は容易ではなかったが、聴講者に懸命に理解しようと努めていただき無事に発表を終えることができました。今回の発表で得ることのできた経験を元に自分自身の研究を進めていきたいと思えます。




平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属
芸術工学研究科
氏名
金澤 綾香
学会の名称
Neuroscience 2015(北米神経科学学会) (アメリカ シカゴ)
研究発表報告
<p>私はアメリカのシカゴにて開催された「Neuroscience 2015」に参加し、自分自身の影が身体所有感“body ownership”を変容させ影が自分の身体のように感じられるかをテーマに「Anatomical similarity is mandatory to provide body ownership toward body-shadow」というタイトルでポスターを行いました。今回は、初めての海外での発表でしたが、なかなか思うように研究に関する説明ができず、自身の能力の足りなさを感じました。しかし、興味を持って熱心に聞いて下さる方が多く、拙いながらも英語での議論ができたことは、多少なりとも今後の研究に対する自信に繋がり、さらに英語での発表に関しての課題も発見できました。このような貴重な経験をする機会ができたことに感謝致します。</p>


所属
薬学研究科
氏名
矢萩 亮
学会の名称
European Society for Sexual Medicine (欧州性機能学会) (スペイン マドリッド)
研究発表報告
<p>この度、国際学会発表支援制度を利用させて頂き、マドリッドで行われた European Society for Sexual Medicine (欧州性機能学会) に参加させて頂いた。私は研究テーマである、ラット陰茎における P_2X_4 受容体の発現と機能解析について発表を行いました。発表の直前までは英語での発表に緊張を覚えていましたが、実際に発表を始めると練習したとおりに発表ができました。また、なんとか質問を聞き取って返答することもでき、ホッとしました。今回の学会発表では、海外の研究者が自分の研究に興味を持って頂けたこと、そして意見をかわし、新たな知見が得られたことが大きな自信に繋がりました。</p> <p>この経験を活かし、今後の研究活動も精進していきたいと思います。</p> <p>写真は指導教授の木村和哲先生(左)と自身(右)、ポスターの前にて撮影した写真です。</p>


平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属	人間文化研究科
氏名	張 蓉蓉
学会の名称	International MultiConference of Engineers and Computer Scientists 2016 (工学者とコンピュータ科学者の国際会議 2016) (香港)
	<p>研究発表報告</p> <p>私は 2016 年 3 月 16 日から 3 月 18 日にかけて香港にて開催された “ International Multi Conference of Engineers and Computer Scientists 2016” に参加してきました。この会議は工学とコンピュータ科学の諸課題において理論と応用の両面に重点をおいている国際会議であり、私は “Interactive Decision Making for Multiobjective Fuzzy Random Simple Recourse Programming Problems and Its Application to Rainfed Agriculture in the Philippines” というタイトルで発表を行いました。</p> <p>様々な地域出身の研究者の方々との議論を通じ、今後の研究に有用な助言や、自分とは異なった視点からの意見を多数頂くことができました。ここで得られた経験を自身の研究に活かしていきたいと思えます。</p>

所属	医学研究科
氏名	海野 怜
学会の名	The 31th Annual Congress of European Association of Urology (第 31 回欧州泌尿器科学会) (ドイツ ミュンヘン)
研究発表報告	<p>今回は発表も含め経験は、私の医師として、また今後大学院で研究をする上で様々な刺激や知識を得ることができ非常に充実したものとなりました。</p> <p>私の発表のため指導いただいた様々な先生方に感謝するとともに、今後研究を含めよりいっそう精進していきたいと感じました。</p>
	

平成 27 年度名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

所属

医学研究科

氏名

安間 三四郎

学会の名称

Orthopaedic Research Society 2016 Annual Meeting (アメリカ)



研究発表報告

今回、初めて国際学会に参加させていただき、貴重な経験をすることができた。今後さらに研究をすすめ成果を出すことができるように努力していきたい。